(2)「新庄地震学」の講評

片田　敏孝　（群馬大学大学院 教授）

みなさんこんにちは。今日は新庄地震学の取り組み、皆さんの活動を見せていただきました。僕は海のない県で津波防災の研究をしています。今日、後ろの方にお集りの先生方も釜石だとか全国の津波の防災教育を一生懸命やっておられる先生方に集まっていただいて、みんなが行っている新庄の防災の勉強の仕方を勉強しに来ました。今日は、10 教科のグループに分かれた新庄地震学の授業をいろいろ見せていただきました。本当に素直な感想を言いますと「いいな」という感じをもちました。僕は前々から新庄中学校のみんなが、15 年前から『新庄地震学』という防災に対しの取り組みを、先輩から引き継いで実施していることは知っていました。そして、全国でも有名な新庄中学校の取り組みですので、どんなことをしているのだろうと、今日は楽しみにきてきました。

まず感想として思うことは、みんなが防災を、あまり暗く考えていないなということです。とかく防災というと、「津波の厳しいところ」、「津波が襲ってくる」、「どこに逃げようか」、「おじいちゃん逃げられるだろうか」、「たくさん犠牲者が出ちゃうんじゃないか」など焦るような気持ちで、ちょっと怖がりながら避難訓練をやったり、緊迫した中で勉強していかないといけないような、なんとなく暗いイメージがつきまといます。けれど、みんなの防災を見ていると、例えば歌やダンス、おいしそうなパウンドケーキつくっているグループの様子、英語でカルタ、凧をつくったりなど、それぞれのグループがいろいろなかたちで楽しく防災を学んでいます。これまでの防災は暗いですよね。「津波が来る」、「昔は大きな被害があった」、そんなことばっかり言いながらやる防災とはちょっと違っています。玄関の入口のところで標語を見つけました。『同じやるなら精一杯やって楽しもう』。あれを見て、まさしくそんな活動をみんなはやっていてくれるなというそんな実感をもちました。みんなのいる新庄は、確かに過去を見るならば、いろいろ津波の災害があったところです。でも日々の生活の中で怯えたり、怖がったりしていたらやっていられないですよね。現にここに住んでいるんですし。ここに住んで、おいしいものがいっぱいあって、みんなにとっての自慢の故郷なんだから、津波の怖い話ばかりではやっていられない。暮らしを楽しみながら、でも、ずっと住み続けるためには、備えなきゃいけない。それが防災なんだけれど、それを暗く考えるのではなく、ここでの生活を楽しみながら、住み続けるために、防災をやらなきゃいけない。これがこの地に住むお作法なんです。それを 15 年前から始まって、いま、きみたちが楽しく引き継いでいる状況を見せていただきました。みんなのような防災に対する向かい合い方が、全国に広がるといいなと思いました。ぼうさい甲子園でグランプリをもらうのも納得できます。そんな取り組みを皆さんが続けていることは本当に心強いなと思います。

それからもう一つ感じたことは、みんな防災を通じていろんなことを学んでいるなと思いました。とかく、中学校や小学校は、学校の中だけの世界になりがちです。だけど、歌を歌ってくれた子たち、踊りを教えてくれた子たちは、たぶん地元の幼稚園や小学生、おじいちゃんおばあちゃんのことを考えてやってくれたと思う。みんなの防災の活動は、あきらかに自分のためだけじゃない。自分の勉強のため、自分の防災のため、それだけを考えていなくて、この地域みんなの防災を、きみたち中学生がしっかり考えている。心強いなと思います。そして何よりも、田辺のこの地域の大人たちが幸せだろうなと思い

ます。きみたちも5年もすれば20歳になる。10年もすれば25歳、地域の中心になって頑張っていくようになる。そのみんなが中学校にいながら小さな子どもたちやおじいちゃんおばあちゃんのことまで考えてくれる。地域との関わりをしっかり持って、そういう人たちもみんな一緒に暮らしているのが新庄です。そこに津波が来るということに対して、みんなで向かい合わなくちゃいけないということ、それを中学生が考えて、地域との関わりを考えながら防災を続けていく。防災は学校の中だけでやるのではなく、地域のみんなでやることなんだと、日頃、僕はそう思っているものだから、まさにみんながそうやっていてくれることにとても心強く思います。

15年も続いてきた新庄地震学ですが、これからもその伝統をみんなで守っていってもらいたいと思います。今日、私と一緒に全国の一生懸命防災をやっている先生方も一緒に勉強しに来たんですけれど、おそらく全国の先生方も勉強になったと思います。僕は防災の専門家なので、いろんな学校の取り組みを見てきましたが、みんなの取り組みは、すごいな、すばらしいなと思っていました。そして、来てみたらやっぱりそうでした。みんなの防災の取り組みが日本中に広がることが日本の防災力を高めることなんだと、そんな自信をもってもらいたいと思います。そして、これからも全国の模範となるように、いままで通り続けてほしい。いまのままやってくれれば、次の2年生にも伝える、1年生にも伝えるというかたちをとっていてくれればと思います。

言いたくないけど、必ずやこの新庄にはいつの日か津波が来ます。でもそのときに、いまのみんなの頑張りの延長に「今回は誰も死ななかったね」と、地域のみんなで喜びをわかち合えるだろうなと思います。津波は来ない方がいいですけれど、来るものです。来るものならば、「誰も死ななかったね」と喜びをわかち合えた方がいい。僕は、そんな取り組みになっているように思います。

今日はみんなの楽しそうにやっている防災を学ぶことができて嬉しかったです。そして、何よりもみんなの肩肘張らない防災、こうじゃなきゃ防災なんて続かないです。みんなのこの防災のやり方を僕自身、全国に紹介していきたいと思っています。今日はいろいろ資料もいただいたし、みんなの活動にこれからも注目し、「防災教育って新庄中学校みたいなこういうやり方あるんだよ」ということを僕自身もあちこちで紹介していきたいなと思っています。